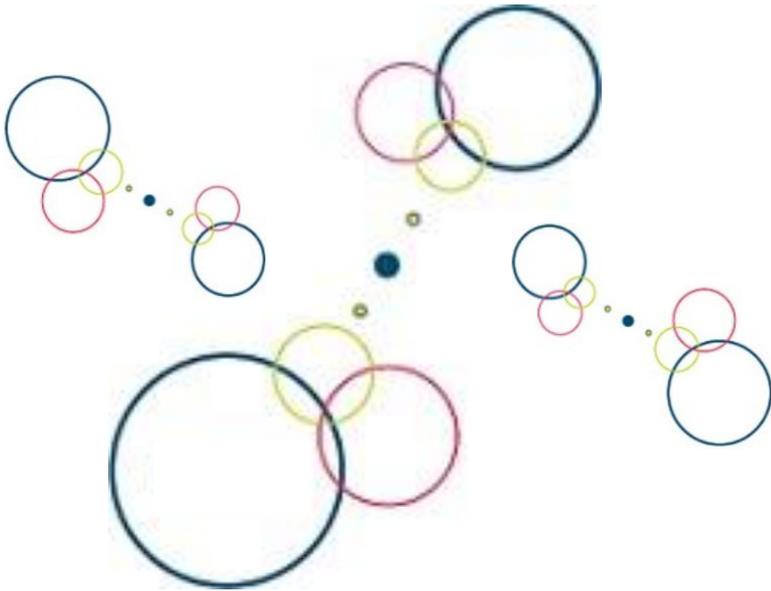


廣瀬仁のルポルタージュ

靈的人生を歩むためのヒント

2026/3/20 積極的に人生に挑戦する必要性





「E21-F ④」 アルトヌウロウイ ARUT.NOROUY 足立育朗

必要だから起こる同調現象

靈的眞理の實踐論の中で「最も難易度の高いものは何か？」と皆さんに本質を問われたならば、「目的と目標を持つ」「積極的に人生に挑戦する」「困難の苦しみを甘受する」という「苦しみへの正しい対処」が最難關であると答えます。

靈優位の努力、調和の實踐、無私無欲、自己犠牲は、廣瀬仁からすれば簡単な實踐内容です。しかし、最終的に誰もが陥る落とし穴が「EGHO意識の元はまわりのせいにする」という「責任轉嫁」であり、〇〇のせいを誰しもが顯在意識D I K A Gでしており、そこに「眞の感謝」は1ミリも存在しません。そうした話を日常で毎日、誰もがしており、起こる現象を自己責任にしています。わたしは「まわりのせいになっているから

學べねーんだよ！」と本音があるのを常に理性で抑えています。

大宇宙の「起こる現象」は基本的に「必要だから起こる同調現象」であり、その現象を通して「何に気づきお詫びし、何を學び改善し、そのお礼をどのように日常生活の靈優位の方向に改善するお礼をするか」が全てであり、これが出来ていない地上世界の人間を「體驗たいけんするだけで學んでいない」といいます。

眞理しんじつと眞實しんじつがすべてに優先する

廣瀬仁は一見すると「人の悪口」を言っているでしょう。ただ、きちんと話を聞いていれば「理由があるから人の悪口を題材にしている」ことに気づくでしょう。わた

しは正直、本音は悪口や陰口はあまり好きではありません。しかし、「靈的視野から捉えた事實は事實として、はっきり嘘偽りなく言葉にはします」し、齒に衣を着せぬ發言はします。單刀直入にはつきり言うから、相手の「D I K A G顯在意識の感情」を傷つけることも沢山してきてますし、それが「廣瀨仁の暗黒地獄行きを感じている根本的理由」であり、「**敢えて相手の感情を傷つける言葉を使っている**」のです。

質問は絶対にされないでしょうが、「何故、そんな偽惡的ぎあくてきなことをいつもするのですか？」と問われたならば、「**相手が靈的成長するためなら、自分は暗黒地獄に墮ちてもいいという覺悟でしている**」と答えるでしょう。そもそも相手を傷つける言葉を選んでる理由は『シルバーバーチの靈訓』の一節が理由です。わたしは古代靈シルバーバーチの言葉を教訓にしているだけなのです。

ここで司會しかいのハンネン・スワツファアが「わたしがサイキックニューズ紙に発表した論評は讀者どくしゃから指摘しんらつされている通り辛辣すぎたでしょうか」と尋ねた。スワツファアの記事を読んですぐに抗議の手紙を寄せた人が何人かいたのである。そのうちの一人は「これほど薄情な意見を讀んだことがない」と書き、もう一人は「非紳士的で男らしくなく、度量に欠け、しかも非キリスト教的である」と決めつけていたのである。するとシルバーバーチが答えた。

シルバーバーチは「そんなことはありません。眞實しんじつを述べれば、それは必ずや人の心に訴えるものです。時には迷信と偏見による抵抗にあうことはあっても、そうした壁はそのうち崩れていきます。(中略)もとより、反論する人はいるでしょう。しかし、その數は取るに足りません。(中略)感情的ないちざさから胸をたぎらせても、

その熱が冷めると否應なしに現實に直面せざるを得なくなります。そこに地上でのあなた方の役割があるのです。(中略)構うことはありません。そういう人はまだそれを受け入れる用意ができていないということなのですから。眞理がすべてに優先します。眞理が近づくと無知は逃げ去ります。いつかは必ずわれわれが優位を占めるのは、われわれの主張が眞實だからこそです」

守護者の歩く眞實と、保護者の白い鏡

このように、眞理や眞實のほうしんじつが、地上人類の愚かな感情よりもよっぽど大切であり、わたしはすべてにおいて眞理を優先させているだけです。ちなみに、わたしの「出身星」を公表すると「うしかい座アルクトゥールス星」のようです。個人的にはどう

でもいい情報の代表格なのですが、星のネーミングはそのまま「歩く眞實しんじつ」です。そしてEHKOエーコの出身星は「さそり座アンタレス星」です。これは「アンタのEGHOエーゴ意識に鏡で返信してるわよ」がネーミングであり、まさにEHKOエーコは「白い鏡」そのものをやっつけています。まあ、どうでもいい情報かもしれませんが……。

アルクトゥールスは、グーグル Googleなどで検索をかければ直ぐにわかりますが、「銀河の聖職者」「クマ（北極星）の番人」「天使の星」と色々な情報が出てきます。ナザレ人イエスも関係している星であり、「銀河連合」のある拠点でもあります。アンタレスは「アルクトゥールスの対つひになる星」であり、アルクトゥールス星人の役割が「守護者」なら、アンタレス星人の役割は「保護者」「地球防衛軍」の役割であり、地球人類に寄り添う者の側面が強くなります。

チャレンジ
積極的に人生を挑戦している理由

靈的眞理の實踐論の「目的と目標を持つ」を、「廣瀨仁は何を目的と目標にしていますか？」と問われたならば、「イエスの地上再臨、シルバーバーチの靈訓、スピリチュアリズムの思想體系のPRを通じた地球人類の救済」を目的に、「ユーワード活動を通じた靈的眞理と音叉ヒーリングの普及を目標にしている」とはつきりと答えま

す。
そして、「廣瀨仁は、何を積極的に人生に挑戦チャレンジしているのですか？」と問われたならば、「靈的眞理の普及のために自分の心を殺し、基本的にやりたくないことを行っている。それは目立つことすべて、マルシエ活動すべてがやりたくないことであり、

人前に出ることそのものが嫌々の挑戦そのもの」であり、どう足掻いても誹謗中傷、誤解、嘲笑、中傷というトラブルは避けられないという「困難の苦しみを甘受」を受け入れ、「苦しみへの正しい対処」をしていると答えるでしょう。

それはシルバーバーチが言うように、「人のために役立つことをする者に呑ん氣なバラ色の人生は望めません。美しいバラにもトゲがあります。靈的な精進の道は厳しい試練の連続れんぞくです。進むにつれて見慣れた標識が遠のいていきます」を忠實ちゅうじつに守ろうとし、靈的人生の指針にしているからです。

廣瀬仁がどれだけの「D I K A G顯在意識の強い決心」と「自己犠牲の覺悟」、それこそ「命

懸け」で「靈的人生の旅の一部である、地上人生の旅」を生きているのか、それを皆

さんに理解してもらおうことは不可能なのでしょう。

シルバーバーチの靈訓という人生の支え

わたしにとって、イエスの教えである『シルバーバーチの靈訓』は、人生の支えであり、心の指針であり、精神の土台であり、あい神意の教訓です。

シルバーバーチは「わたしが永いあいだ地上世界の仕事にたずさわってきて何よりもうれしいのは、しもべ靈の僕として働いている同志をここへお招きすることです。あなた方がどうしてもたどらねばならない地上生活のパターンというものがあることはわたしはよく承知しております。外部の世界とは無縁の心の痛み、苦難、苦痛、その

他もろもろの複雑な感情があることもよく存じております。支払わねばならない代償があることも存じております。それが時には精神的ならびに靈的に十字架を背負わされることになることがあります。しかし、それが靈的進化の道なのです。その道での褒章を得るには奮闘努力しかなく、近道はなく、眞の向上の一步一步が絶対に後戻りを許されない確固たるものでなければなりません。もしも氣樂な人生を望まれるなら、もはやその人生では他人のために自分を役立てることはできません。魂が自我に目覺め、意圖いとされた通りに靈的資質を開發し、縁あつてあなたのもとを訪れる人々がその天賦の才能によって恩恵を受けるようになるには、刻苦と苦難と修養と節制の生活しかないのです」、そして「靈性の開發は茨の道です。苦難の道を歩みつつ、後に自分だけの懐かしい想い出の標識を残していきます。魂の巡礼の旅は孤独です。行けば行くほど孤独さを増していきます」と述べています。

この通り、奮闘努力なくして他人のために自分を役立てる仕事は出来ません。氣樂な人生を望んでいて靈的向上は望みません。だから、靈的眞理を知った者は、困難を覺悟で「積極的に人生に挑戦し、^{チャレンジ}困難の苦しみを甘受し、苦しみへの正しい対処をする必要がある」のです。

眞理普及の困難を最前線でやる覺悟

實際、靈的眞理を實踐し、普及しようとして奮闘努力しているスピリチュアリストは迫害を必ず受けます。シルバーバーチは「地上では先覺者はあまり歓迎されないのです。

大てい非難を浴びております」と言っていたり、イエスについて地上再臨をしていなかった当時の靈界通信では、「もう、イエスのような人物が出現する必要はありません

ん。たとえばあのナザレのイエスが今この地上に戻って来たとしても、多分地上で最も評判の悪い人間となるでしょう。とくにイエスを信奉し師と崇めるキリスト教徒から一番嫌われることでしょう」と言われる始末です。

わたしも今世で大いに批判、誹謗中傷、嘲笑などされてきているので、靈的眞理普及の大變たいへんさと困難さを一番痛感しています。スピリチュアリズム普及會ふきゅうかいでのイエス再臨の記事で、イエスは毎回「イエスだ。神に誓って。眞理普及の大海原での道のりは果てしない。我々は、その最前線を切り開くべく前進している」から始まるのが確認できますが、イエスでさえ「眞理普及の大海原での道のりは果てしない」と毎回述べており、その大變たいへんさを自覺していることが言葉から分かります。わたしはイエスが地上再臨し、最前線で眞理普及をしていることが、「積極的に人生に挑戦チャレンジし、困難の苦

しみを甘受し、苦しみへの正しい対処をする必要がある」の體現たいげんだと感じます。そのイエスに従い、イエスの地上再臨の受け皿であるスピリチュアリズム普及會ふきゅうかいに従うというのは、わたしは「理性に適った判断」だと自分自身で認識しています。

魂の巡礼の旅、スピリチュアリストというのは孤独の道

わたしは2011年の『東日本大震災（※100%人工地震）』が人生のターニングポイントになっていきます。2011年5月に、同時期に、茨城県水戸市にある自然食品店で『シルバーバーチの靈訓』と『FAIR製品（※一應いちおう、波動の法則もこの時点でシルバーバーチの靈訓と同じタイミングで知る）』を知ったからです。その後、人生の黒歴史とも言うべき時期が2011年〜2018年までつづくことになり、2019年5月に日本に帰國きこくし尼崎を抛

点にするまでは、ダイナミックすぎる人生を歩んでました。

この時期については、きちんと質問されたら答えるかもしれませんが、「靈性の開發は茨の道です。苦難の道を歩みつつ、後に自分だけの懐かしい思い出の標識を残していきます。魂の巡礼の旅は孤独です。行けば行くほど孤独さを増していきます」を嫌というほど味わいまくりました。

多少は話の節々に断片的な情報を皆さんに述べていますが、眞理普及をしすぎて殺されかけたり、何十人、何百人にも身勝手に裏切られたり、海外で危うく野垂れ死ぬ寸前だったり、海外で臨死體驗たいけんしたり、とにかくこの黒歴史の時期は波瀾万丈でしたね……。まあ、まだ2021年3月の黒歴史もありますが、とにかく「裏切られる」と「信

頼できる仲間をつくる」が40歳になるまでのテーマでした。それは嫁のEHKOのお陰エーコで信頼できる人間が何人か現れることになるまでは、わたしは孤独でしたし、誰ひとり理解者などいませんでした。今世でEHKOエーコ以上にわたしを理解してくれる人は絶対に現れないでしょう。それだけ、「スピリチュアリストというのは孤独の道」なのです。皆さんはわたしと同じような過酷なたいけん體驗をして、それでも神と自然法則への信仰心を維持できますかね？

靈的眞理の信仰實踐と普及に命を捧げてきた

そもそも、廣瀬仁が音叉ヒーリングを教えているのに宗教的にならない時点で地上世界ではかなり異質なのです。わたしはナザレのイエス、古代靈シルバーバーチが言

うように、靈的眞理の普及でしか地上世界は救済できないと思います。それ以外の方
法を唱えている人間を沢山見てきましたが、全部失敗に終わっているからです。

しかし、眞理の普及、眞理の信仰實踐のみが、その人間を救済し、幸福にするのは
何度も見てきました。靈的眞理の普及とは「イエスの地上再臨のPR」、「イエスの教
えであるシルバーバーチの靈訓と、靈的眞理の理論と實踐を體系化したスピリチュア
リズムの思想體系たいけい」の普及を意味し、それ以外に人生の最優先事項などないことに
如何に素早く気づき、靈的新生をし、靈的眞理の普及に人生を捧げられるかが鍵にな
ります。これだけが、地上世界を救済できる唯一の方法なのです。

2011年（25歳）から2026年（40歳）まで15年間、様々な紆余曲折はありながらも、

靈的眞理の信仰實踐と普及にわたしの命を捧げてきました。これからも神と自然法則、そして神の教えを普及する代表のイエスのために命を捧げるでしょう。わたしは死後にどうなってもいいから、それを實行するでしょう。神とイエスに従い、この惑星地球の地上世界の地獄を解放できるならば、わたしは喜んで命を捧げましょう。

しかし、こうした思想でキリスト教の「贖罪説」しよんざいせつという間違つた教えが生まれてしまつたようです。贖罪しよんざいとは、犠牲や代償を捧げて罪をあがなうこと。特にキリスト教で、キリストが十字架上の死によつて、全人類を神に対する罪の状態からあがなつた行爲を意味します。これが贖罪説しよんざいせつという大罪を生んでしまつたようです。

やはり行き過ぎた自己犠牲で喜ぶ人間はいないということであり、自己犠牲でまわ

りが幸せになるなら別に自己犠牲をしてもいいと思いますが、まわりを不幸にする自己犠牲はしたくありません。

皆さんは地上人生を有意義に生きようとしていますか？

こうしたわたしの本質に迫る大切な話をしても、わたしの真意は皆さんに傳つたわらないし、こうした大切な話を聞いても相變かわらずクズの行爲つづを續ける人間のほうが残念ながら8割以上でしょう。そして、少なからず今後も神とイエスに逆らう存在が一定數いるでしょう。わたしは説教臭いから嫌われるし、煙たがられるし、目の上のタンコブみたいな存在でしょう。何故なら靈的眞理がすべてに優先するからです。下らない愚かな地上人の感情よりも優先すべきは靈的眞理だからです。

ここまでの話で、地上人生は「目的と目標を持つ」「積極的に人生に挑戦する」「困難の苦しみを甘受する」という「苦しみへの正しい対処」をすることが靈的實踐論の中でも最難關という意味が分かるかもしれません。靈的眞理を信仰實踐し、靈的眞理を普及しようとするスピリチュアリストとは必ず困難が多くなるので、よほどの決意と覺悟がなければ心がすぐに折れるでしょう。しかし、靈的眞理を知った者は、病める地上世界がみずからを癒す事業を地上から援助し、地上人類が無謀な愚行に走るのを食い止め、無数の人間の悲劇の根源となっている自己中心主義と貪欲の行爲をやめさせるという責任と義務を負っています。

この道は樂ではありません。薔薇ばらの花に飾られた優雅な道でもありませんが、苦難は進化を促し、魂を調整するための不可欠の要素です。魂が本質に目覚めるのは苦難

の中にあつてこそです。人生のうわだけを生きている人間には、「靈優位」の「調和の實踐」を通して魂を自己開發する機会がありません。地上的方策が尽き果て、八方塞がりの状態となつたかに思える時こそ、魂が目覺めるものです。わたしは奉仕活動に手を染め、すべてを天命にまかせる覺悟をしています。

イエスをリーダー総指揮者にした靈界主導の地球人類救済計画スピリチュアルイズムが要求しているものは、神とイエスへの忠誠心であり、靈界との協調的精神、一途さ、信頼心、そして知識が生み出す信仰心を土台とした絶対的な自信です。わたしは地上世界に生を受けるずっと前からこの仕事を志願してたと感じるのです。そのためにわたしは地上人生を出来る限り積極的に生きるようにしており、怠惰に過ごすことは悪だと捉えています。皆さんは、地上人生を有意義に生きようと努力していますか？